7　資料「指導案の作成に当たって」

⑴　主題名　○○○○

⑵　教材名　○○○○（出典◆◆◆）

⑶　ねらい　○○○○○○○○

道徳性の諸様相のどこに焦点を当てて授業するのか明示する。ねらいが道徳的判断力であれば登場人物の判断に着目させる、道徳的実践意欲であれば自己との関わりについて発問するなど、ねらいが本時の指導に反映されるようにする。

「～しようとする道徳的判断力を育てる。」「～しようとする道徳的心情を育てる。」
「～しようとする道徳的実践意欲や道徳的態度を育てる。」

⑷　学習指導要領との関連と主題設定の理由

①　学習指導要領との関連　内容項目○―（○○）　○○○○

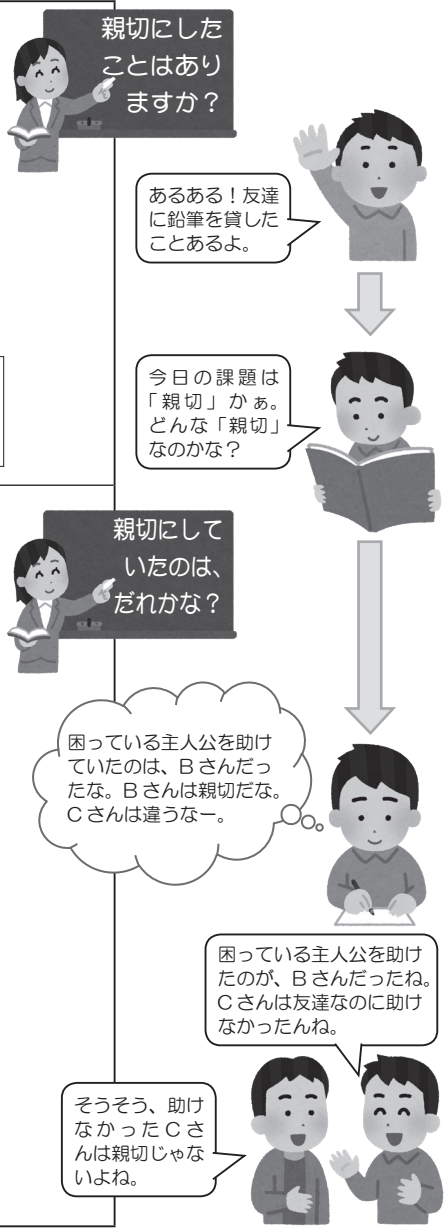
②　主題設定の理由

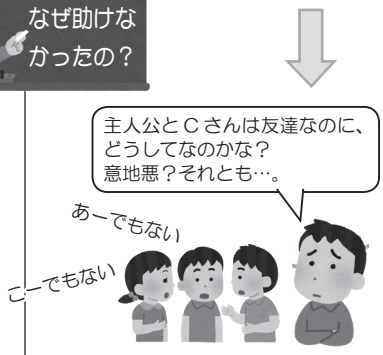
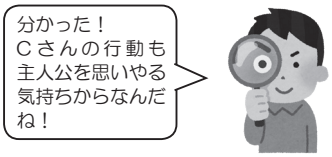
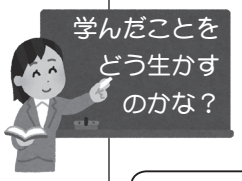
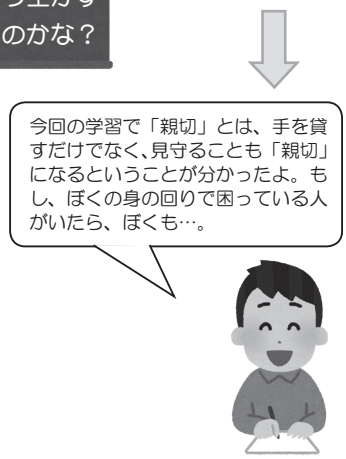
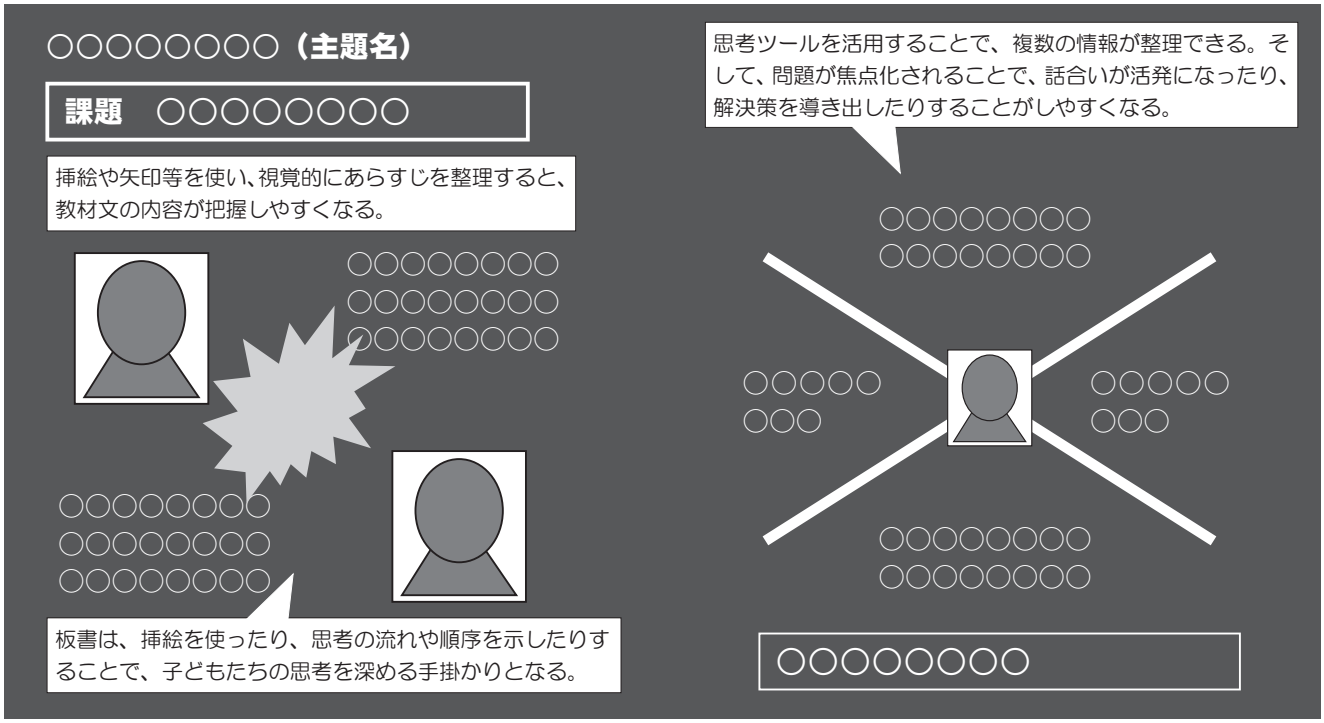
主題設定の理由は、① ねらいとする道徳的価値観について（価値観）、② 子どもの実態（児童生徒観）、③ 教材の特質と活用方法（教材観）の３つに分けて記載する。

⑸　本時の展開

指導過程	○主な発問や教師の指示　・予想される子どもの反応	指導上の留意点（□）評価（☆）
導入	**1　本時の主題に関する問題意識をもつ。** （または教材の内容に興味・関心をもつ。） 子どもたちにとって意識することの多い内容項目であれば、普段の生活を振り返ることで、自分事として関連付け、問題意識をもつことができるようにする。また、意識する機会が少ない内容項目については、教材の内容に興味をもつような工夫を行う。 **2　本時の課題を確認する。** 課題　○○○○とは何か、考えよう。 課題は、子どもたちの問題意識に合致したものを設定するように心掛ける。導入の段階で課題が明確な場合は「なぜ～（Why）」、そこまで明確でない場合は「～考えよう（Let's）」など使い分ける。	
展開	**3　教材文を範読する。** 対話１ 【教材との対話の場】 教材文は、子どもたちが短時間で正しく理解するためにも、冒頭であらすじや登場人物を確認する。「みんなだったらどうする？」「一番親切だったのは誰かな？」等、自己を投影させる登場人物の紹介や、内容項目に着目するような発問をして教材文を読む視点を明示し、自分の考えがもてるようにする。 **4　あらすじを確認する。** **5　中心発問をする。** 発問１ 【主題に迫る中心発問】 中心発問は、その発問を通して、ねらいとなる内容項目の道徳的価値の理解を深めていく。 【話合い活動①】 ・個人思考。 ↓（ノートなどに自分の考えを書きこむ。） ・ペアやグループで自分の考えを交流する。 理由や根拠を交えて互いに説明し合う。 ↓ ・全体で意見を交流する。 対話２ 【他者との対話の場】 自分の考えを明確にしてから、他者との対話を通して、物事を多面的・多角的に考える。	

授業のイメージ



展開	6　問い返しを行う。 発問２ 【道徳的価値を深める問い返し】 人間理解や他者理解の視点、他の道徳的価値との葛藤を提示することで、子どもたちが一度立ち止まって考えることができ、より深い理解を促すことにつながる。 【話合い活動②】 ・ペアやグループで自分の考えを交流する。 ↓ ・全体で意見を交流する。 話合いだけでなく、グループワークや動作化、役割演技等を活用し、表現活動を工夫することで、子どもたちの思考を活性化する。	 
終末	7　自分事として考える。 発問３ 【自分自身と関連付ける発問】 教材文から離れ、本時で学んだ道徳的価値を実現することのよさや難しさ、自己の生活の中で生かす場面を考える。 8　教師の説話を聞く。 教師の体験や願いや様々な事象についての所感など、人間性が表れる説話は効果的である。ただし、価値観の押し付けや訓戒、叱責にならないよう注意する。（今年度の研究では未実施） 9　振り返りを行う。 対話３ 【振り返りでの自己との対話の場】 本時で学んだことや気付いたこと、自分が気付かなかった新たな考えなど、複数の観点を提示し、それらの観点について振り返りを行うようにする。継続して取り組むことで、学びの記録として蓄積することができ、学期末や年度末などに自己を俯瞰（ふかん）して振り返ることができる。	  

⑹　板書計画